

自然災害からあなたの身を守るために

「もしも…」の備えは大丈夫？

平成17年3月20日、福岡県福岡市の沖、玄海島付近で発生した「福岡県西方沖地震」はマグニチュード7.0の強い地震で、本市でも震度4を観測しています。全国的には大地震の発生確率が低い長崎県ですが、過去には災害が発生する恐れのある震度5弱以上の地震も観測されています。しかし、自然災害は地震だけではなく、土砂災害などの風水害もどこで発生するかわかりません。今回は、自然災害発生時の「もしも…」に備えて、市民の皆さんができること、知っておきたいことなどについて特集します。

地震災害

平成七年一月十七日に発生した「阪神・淡路大震災」から十三年。六千四百三十四人も犠牲者を出し、テレビで流れたあの惨状をいまだに忘れることができない、という人も多いと思います。

この阪神・淡路大震災以降も国内では大規模な地震が発生しています。記憶に新しいところでは、昨年七月十六日に発生した新潟県中越沖地震でも多くの家屋が倒壊し、柏崎市などを中心に、一部損壊などを含めると約四万二千棟の住宅被害が発生しています。今の日本列島では、いつ、どこで地震が発生してもおかしくない状態だといわれています。本市も例外ではありません。

ません。

平成十七年に発生した福岡県西方沖地震では、本市でも震度4を観測しています。震度4では屋内にいる人のほとんどが揺れを感じ、棚にある食器類が音を立てたり、屋外では電線が揺れたりして恐怖感を覚える人もいます。

地震は突然発生し、一瞬で生命や財産に大きな被害をもたらします。この被害から身を守り、被害を最小限に抑えるためには市民一人一人が慌てず、適切に行動すること、日ごろから地震について関心を持ち、防災意識を高めることが大切です。

では、そのためには何が必要かを考えてみましょう。



平成19年7月新潟県柏崎市内

緊急地震速報！慌てずに行動できますか？

昨年十月一日から「緊急地震速報」の提供が始まりました。緊急地震速報は、最大震度5弱以上と推定した地震のときに、テレビやラジオを通じて強い揺れの地域を知らせます。

情報を聞き取ってから、強い揺れが来るまでの時間は数秒から数十秒しかありません。この短い間に身を守るための行動をとる必要があります。大事なことは慌てないということです。周囲の状況に応じて、慌てず、まず身の安全を確保しましょう。

家具の転倒防止で安全な避難経路の確保を

大地震が発生すると、家具が転倒、散乱したために逃げ遅れたり、けがをしたりすることがあります。冷蔵庫やピアノなど、重くて動くはずがないと思っているものが移動したり、テレビや電子レンジが飛んだり、日常では考えられないことも起きています。

家具の転倒や落下を防ぐためには、家具を壁や柱、かもしなど建物本体に固定することが効果的です。壁などに固定できない場合は、家具を天井で支える方法もあります。

安全のためには家具の配置などにも工夫が必要です。壁を背にした家具は前方に倒れてくるため、就寝場所は家具の高さ分以上離すか、家具の脇などが安全です。また、家具が倒れて出入口をふさぐ場合があるので、出入り口付近には置かないようにしましょう。

地震災害への備えはこれだけで大丈夫でしょうか？ あなたの身を守るために知っておきたいこと、やっておきたいこと、ほかには何があるのでしょうか。

備えあれば憂いなし！非常持ち出し品の準備



【非常持ち出し品】

- 懐中電灯（できれば一人に1つ用意）
- 携帯ラジオ（小型で軽く、AMとFM両方が聞けるもの）
- 非常食・水（缶詰など火を通さずに食べられるもの、水はペットボトルが便利）
- 救急医薬品（傷薬、ばんそうこう、解熱剤、胃腸薬、目薬など。常備薬は忘れずに）
- 貴重品（現金、預金通帳、健康保険証、住民票の写しなど。公衆電話用に10円硬貨も）
- その他（予備の電池、缶切り、衣類、軍手、ビニール袋、ライター、乳幼児のいる家庭ではミルク、ほにゅう瓶、紙おむつなど）

【非常備蓄品】

- 食料品（缶詰やレトルト食品、ドライフーズや栄養補助食品、調味料など）
- 水（飲料水は大人一人当たり1日3リットルが目安。ポリ容器にためておく）
- 燃料・その他（卓上コンロや予備のガスボンベ、毛布、寝袋、洗面用具、ラップ、使い捨てカイロ、ロープ、スコップ、パールの工具、トイレトーパー、マスクなどがあると便利）

災害時に最初に持ち出す「非常持ち出し品」は家族に必要な分を、支援を受けられるまでの数日間を支える「非常備蓄品」は約3日分を用意しておきましょう。

非常持ち出し品はいつでも持ち出せる場所に備えておくことが大切です。また、食料品や水の賞味期限が切れていないか、懐中電灯やラジオは正常に作動するかなど、時々中身を確認しましょう。

グラッ！突然の地震発生 あなたはどうしますか？



まず落ち着いて身の安全を守る

- 丈夫な机やテーブルの下に身を隠し、座布団などで頭部を保護する
- 使用中のガス器具、ストーブなどは揺れが収まってから火を消す
- マンションやビルでは玄関などの扉を開け、非常脱出口を確保する
- 慌てて外に飛び出さない

避難のタイミング

- 行政機関から避難勧告や避難指示などが出たとき
- 津波、土石流、がけ崩れ、地すべりなどの恐れがあるとき
- 震度4以上の強い地震や弱くても長い時間ゆっくりとした揺れを感じたとき
- 近所で火災が発生し、延焼する恐れがあるとき

じたときは、すぐに海浜から離れ、高台など安全な場所へ避難する

- 建物が倒壊する危険があるとき
- 自宅で火災が発生し、火が天井まで燃え移ったとき
- 近所で火災が発生し、延焼する恐れがあるとき

避難するときのポイント

- 避難する前に、もう一度火元を確認し、ガスの元栓、電気ブレーカーを切る
- 各家庭に配布している防災マップを参考に、できるだけ指定された最寄りの避難場所へ避難する
- 子どもや高齢者など災害時要援護者に気を配り、避難誘導する
- 避難場所へ移動するときは、狭い路地や塀のそば、川べり、落下しそうな物のそばを避ける
- できるだけ近所の人たちと集団で避難する
- 山間部など、どうしても車で避難しなければならぬ場合を除いて、徒歩で避難する
- 家の目立つ場所に避難先を書いたメモを残しておく
- テレビ、ラジオなどで正しい情報を得て、冷静に行動する

大地震が発生したとき、慌てず行動できるように、普段から家の中でどこが安全か、避難するときに何をもち出すか、最寄りの避難場所など、家族で確認しておくことが大切です。